

米国における大学生アスリートへの ライフスキル開発支援プログラムの実態：ミネソタ大学の事例

松尾博一¹⁾

The reality of life skills development support programs for college student athletes in the U.S.: The Case of the University of Minnesota

Hirokazu MATSUO¹⁾

Abstract

The purpose of this study was to obtain knowledge of student support programs at NCAA-affiliated universities in the U.S. to contribute to the development of “the skills necessary for students to improve their abilities to become socially and professionally independent after graduation” at universities in Japan. This study reviews the literature related to the student-athlete life skills development programs implemented by the NCAA. Besides, investigating the case of the University of Minnesota to identify how U.S. universities are implementing programs to support student-athletes. The NCAA Life Skills Program and the University of Minnesota case reviewed in this study have always focused on helping students acquire general-purpose skills during their time as student-athletes. The life skills can apply in their lives after graduating from university and retiring from competitive sports. By creating opportunities for students to experience a wide variety of roles and values, the programs provide a comprehensive experience that cannot be obtained through athletic activities alone. It may not be easy from a cultural and financial point of view to apply for these programs directly to Japanese universities. However, these programs can be a useful reference material for considering what kind of growth and ability development is demanded. And for considering what kind of support can be provided to student-athletes who engage in competitive sports activities in Japanese higher education.

Key word: College sport, NCAA, UNIVAS, Athletic department

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

I. 緒言

2019年3月に「大学スポーツ協会⁷⁾」が創立され、これまで国内に存在していなかった大学横断かつ競技横断的統括組織としての機能を果たすことが期待されている。この「大学スポーツ協会」の創立に関連する議論が始められた大きな要因の一つに、大学の運動部活動が大学内の組織として正式に位置付けられていないために責任体制が不明確となり、結果として会計の不透明性や不測の事故や事件発生への対応が遅れるといった問題の原因となることが挙げられる¹⁰⁾。これらへの対処を目指して大学における運動部活動におけるマネジメント体制の整備が進められてきた。その中で、「大学スポーツ振興に関わる検討会議 最終とりまとめ²¹⁾」において、大学スポーツにおける競技横断的な統括組織の必要性や大学内にてスポーツ活動をマネジメントする部局の設置、さらには学内のスポーツ活動のマネジメントに中心的な役割を持つ「スポーツアドミニストレーター」の配置が提唱された。それを受け、大学スポーツ振興の推進事業²²⁾を通して大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する部局の設置や人材の配置を支援し、大学スポーツの活性化や大学スポーツを通じた大学全体の振興を図るための体制整備が図られてきた。

大学における課外活動は、学校教育法等の関連法令に直接規定されているものではないものの、大学設置基準¹⁵⁾の第36条における「大学は、校舎のほか、原則として体育館を備えるとともに、なるべく体育館以外のスポーツ施設及び講堂並びに寄宿舎、課外活動施設その他の厚生補導に関する施設を備えるものとする。」との記載や、同じく42条にある「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適

切な体制を整えるものとする。」との記載から、課外活動を含む厚生補導についても教育的効果を認めるとともに、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の涵養には教育課程と厚生補導の両面が必要であるとの認識が伺える。しかし、それぞれの大学の動向は方向性が統一されておらず、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うこと¹⁵⁾」よりも、大学によってはエリート競技者の育成や大学のブランディングを目的としたマネジメント体制の構築に終始している可能性がある。従って、本来の課外活動の役割に立ち返り、高等教育において競技スポーツ活動を行う学生にどのような成長や能力の開発を望むのか、改めて検討する必要があるものと考えられる。

そこで、大学スポーツ協会の創設に際して参考とされた米国 NCAA に加盟する大学における学生アスリート支援プログラムの事例から、国内の大学における「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」の涵養に資する資料を得ることを目的として研究を行うこととした。本稿においては、米国 NCAA によって実施されている学生アスリートのライフスキル開発支援プログラムに関連する文献をレビューするとともに、NCAA の加盟大学であり、ライフスキル開発支援プログラムを積極的に進めているミネソタ大学を事例とし、米国の大学がどのようにして学生アスリートへの支援プログラムを実施しているのか、その実態を明らかにすることを試みた。なお、NCAA、及びミネソタ大学 AD の提供するライフスキル開発支援プログラムに関する情報は、それぞれの公式ウェブサイトに掲載されている内容に加えて、2018年1月にミネソタ大学にて同部局の上級副ディレクターであり、学生アスリートのライフスキル開発プログラムの責任者を務める Peyton Owens III へのインタビューを実施した際に取得した資料から得

られたものである。

NCAA とは、1000 校を超える大学と約 50 万人の大学生アスリートが加盟し、男女様々な競技で毎年 90 大会の大学選手権を開催している¹⁸⁾。その基本的な目的は、「大学における競技活動を教育プログラムの不可欠な部分として、また競技者を学生組織の一部として保ち、そして大学における競技スポーツ活動とプロスポーツの明確な境界線を保持することである¹⁷⁾。」である。

II. NCAA が提供するライフスキル開発支援プログラム

II -i. ライフスキル開発支援プログラムの必要性

学生アスリート、その中でも特に低年齢から競技を始めた場合、スポーツを通して自己を認識する傾向にあり^{1,3)}、その傾向は家族や友人によって生涯にわたって強化されるということが示されている⁹⁾。また、競技キャリア全体を通してスポーツに多大な時間と努力を費やし、アスレチック・アイデンティティと呼ばれる、自身の運動能力をアイデンティティの一部に含むようなアイデンティティを獲得することさえある^{4,16)}。さらに、学生アスリートがこのようなアイデンティティを獲得している場合には、自尊心を向上させ、維持するために、生活の中でスポーツのパフォーマンスを向上させることを優先させる傾向が強化される可能性がある。

一方で、競技者がスポーツに対して長期的、かつ献身的に取り組む場合、それは競技成績の向上に寄与する一方で、そのコミットメントのためにスポーツ以外の世界と関わり、探求する機会を制限したり、妨げたりする場合がある^{2,9)}。一般的に、米国における競技シーズン中の大学生アスリートは 1 日あたり 4 時間をスポーツ関連の活動、6 時間を学業関連の活動、7.5 時間を睡眠、6.5 時間を休息または余暇活動に費やしているとの報告がある⁵⁾。このような現状に対して、Kelly and Dixon¹¹⁾は、学生アスリー

トは大学で得ることのできる様々な経験を十分に得ることが難しく、スポーツ活動との両立に苦慮していることを指摘している。つまり、スポーツ活動に従事するために様々な社会的、学業的な経験を失っているということである。

これまで、競技スポーツ以外の経験の欠如と高いアスレチック・アイデンティティは、学生アスリートから社会人になる際の移行に負の影響を与える可能性があると言われている^{2,25)}。どのような人であっても、長期的にみれば競技スポーツからの引退は避けられないものであり、すべてのアスリートはどこかの時点で引退をすることになる。そのため、学生アスリートが自分自身をアスリートであると強く認識していたとしても、就職などによって社会人への移行が予想される場合には、どのようにして彼らを支援することができるのかを考える必要がある。

自身が選択した分野からの移行、つまり引退は、人生の後期だけでなくどの年齢でも起こり得るものであり、「時間とエネルギーを費やし、特定の役割を果たしてきた活動からの移行点」と考えられている¹⁾。学生アスリートは、競技スポーツから引退するときにそのような移行を経験するが、一般的には、移行前に準備をして活用できるリソースを増やすことが、その移行を成功させるために有益であることが示されている⁹⁾。しかし、そのような準備が推奨されているにもかかわらず、大学で競技スポーツを行っていた学生アスリートが社会人に移行した際に、混乱、悲しみ、社会的サポートの喪失、抑うつ、孤立などの様々な感情を経験していることが報告されている^{8,9,14,19,24)}。このような背景から、米国においては、NCAA を中心として学生アスリートが適切に社会への移行を行えるように支援プログラムを開発し、このような状況の改善に努めてきた。

II -ii. NCAA ライフスキルプログラム (Life Skills Program)

学生アスリートは、競技スポーツ活動に関する厳しいスケジュールが課されているため、学業やその他の教育活動に従事するための時間が少ない傾向にある⁶⁾。このような状況の改善を目指して、NCAAはライフスキルプログラム（以前はCHAMPS/Life Skillsと呼ばれていた）を開発した¹⁸⁾。なお、CHAMPSとはChallenging Athlete's Minds for Personal Successの略語である。このプログラムは、バランスのとれた人生こそが成功の鍵であると考えたDr. Homer Riceが1981年に考案した「トータル・パーソン・プロジェクト¹³⁾」をモデルにしたものである。このプログラムの目的は、学業成績、競技スポーツでの成功、個人的なウェルビーイングの3つのコアバリューの全てに焦点を当て、将来の成功のために学生アスリートを支援することであり、National Association for Academic Advisors of Athletics (N4A)によって統括されている。このプログラムは、大学での生活や競技スポーツ引退後の生活にも焦点を当てており¹²⁾、実社会へと環境が変化した際に、学生時代に獲得したスキルを転移するための準備を支援している²⁰⁾。

2018年1月にミネソタ大学にて同部局の上級副ディレクターであり、学生アスリートのライフスキル開発プログラムの責任者を務めるPeyton Owens IIIへのインタビューを実施した際に取得した資料を基に、米国の大学においてライフスキルプログラムがどのように展開されてきたのかを以下のように整理した。ライフスキルプログラムは、1991年にNCAA財団の支援を受けてCHAMPS/Life Skillsとして開発された。当初はNCAAが直接プログラムを提供していたが、1994年よりNCAAの加盟大学に対してプログラムを紹介するとともに、各大学が主体となってキャンパスの学生アスリートにプログラムを提供できるように支援を開始した。現在は、NCAAにおける教育プログラム

の提供を担当するスタッフが、大学のために年間を通してプログラムを開発し、サービスやリソースの提供、プログラム運営のサポートなどを行なっている。

NCAAは、このプログラムに関するオリエンテーションを年に一度開催しており、各大学より少なくとも1名の代表者が、意見交換やネットワーキング、キャンパスでのプログラム運営計画の改善について議論するために参加する必要がある。また、オリエンテーションに加えて、新たな資料の紹介や技術的な支援の追加、キャンパスでのプログラム効果の改善に資するサポートを提供するために、ライフスキルプログラムの継続的教育会議(Continuing Education Conference)が毎年2月に開催される。これは各大学におけるプログラムの責任者にとって、プログラムのアイデアを交換し、学生を支援するための専門的な能力を開発する機会となっている。プログラムの概要は表1に示した通りである。

III. ミネソタ大学アスレチックデパートメント (AD) の提供するライフスキル開発支援プログラム²³⁾

III -i. ミネソタ大学 AD

ミネソタ大学 AD は、「Champions for Life」というビジョンを持ち、学生アスリートが競技力を向上するのと同様に、学業的な達成と人間的成長を促すことで、人生を通じた成功を導くことを目指している²³⁾。さらに、「ユニークなスポーツ、学業、人生を変えるような経験に意図的に焦点を当て、マルーンとゴールド(大学のカラーであり、ミネソタ大学の学生を表す)をより大きな高みとキャリアの成功へと導くことで勝利を手にする。」というミッションを掲げ、学生の競技的、学業的、社会的成功のために様々な取り組みを行っている。

表1 NCAA ライフスキルプログラムの概要

プログラムにおける10目標	
1.	全ての学生アスリートにおける知的能力開発と学位の取得への努力を支援する
2.	人生における成功への準備としてスポーツを用いる
3.	学生アスリートにおけるニーズの変化を捉える
4.	学生アスリートにおける多様性の尊重を促進する
5.	学生アスリートの人生における対人関係を改善する
6.	学生アスリートにおけるポジティブな自尊心の構築を支援する
7.	学生アスリートがコミュニティに対して意義のある貢献をできるようにする
8.	学生アスリートが彼ら自身の学業、スポーツ、個人的・社会的責任を持つことを促進する
9.	教育的な目的によってNCAA、加盟大学、そして彼らのコミュニティとのパートナーシップを改善する
10.	リーダーシップ・スキルの開発を推奨する
プログラムの5領域	
1.	学業的卓越へのコミットメント 知的能力開発と学位取得に向けた学生アスリートの学業的成長を支援する
2.	競技的卓越へのコミットメント 学生アスリートの幸福のために広範かつ公平で、献身的なスポーツプログラム開発のための哲学的基礎を築くこと
3.	個別的能力開発へのコミットメント 学生アスリートにおけるバランスの取れたライフスタイル、心理的幸福、人間的成長、意思決定スキルの開発を支援する
4.	キャリア開発へのコミットメント 学生アスリートのキャリア、および人生のゴールの探求と開発を推進する
5.	奉仕へのコミットメント 学生アスリートを彼/彼女のキャンパスや周辺のコミュニティでの奉仕活動に従事させる
各大学に提供されるリソース	
1.	学生アスリートにおけるニーズの優先順位を判断するにあたって、参加する大学を支援するためのニーズ評価ツール
2.	プログラム評価ツール、および様々な運営上の課題に言及した情報を含むプログラム運営マニュアル
3.	構築されたプログラムのモデル、および全国的に著名な教育プログラムの提供者、組織、もしくは協会によって開発された教材を含んだマニュアル
4.	教材を捕捉するための補助的資料（ビデオ、CD ROMなど）

III -ii. The Land O' Lakes Center for Excellence

学生アスリートを支援するために、ミネソタ大学には個人々人に対する教育的な体験やサービスを提供する包括的なプログラムを設計するThe Land O' Lakes Center for Excellence (表2)がある。このセンターは、大学や学生と地域コミュニティ、地域の企業、そして卒業生等と結びつける役割を持つことから、通称「L.I.N.K」と呼ばれ、「Leadership & Learning」のL、「Inclusion & Innovation」のI、「Networking」のN、「Knowledge」のKを表している。その中で、2020年現在、7名のフルタイム職員と2名のインターンによって自己開発(Personal Development)プログラム、新入生オリエン

テーションコース、学生アスリート諮問委員会(S.A.A.C.)、地域コミュニティへのボランティア活動等のプログラムが提供されている。

i) Leadership & Learning

ミネソタ大学ADでは、学生アスリートのリーダーシップ能力を開発することを目的とする「Leadership U」というプログラムを行っている。リーダーシップ能力を向上させ、より良いコミュニケーション戦略を構築し、学生アスリートのレジリエンスを高めるために、情動知能モデルを活用したトレーニングを行っている。このようなトレーニングを通じたAD全体の開発は、望ましい文化を強化し、学生の経験をより良いものとし、フィールド上とフィール

ド外の両方のパフォーマンスを向上させることができるものと考えられている。その目標は、学生アスリートがゴーフアーズの一員として、そしてミネソタ大学を卒業した後の人生でリーダーになるための準備を支援することである。このプログラムでは、コンテンツの提供と部局間の連携を通じて、学生アスリートが総合的な人間性や社会性を身につけ、将来のリーダーに

成長できるように促し、学生アスリートは情動知能、リーダーシップ能力、レジリエンスを高め、自分自身を擁護する能力を高めていく。なお、この「Leadership U」は乳製品を中心とした農産物の生産・販売をしている Land O' Lakes 社からの寄付によって開発されたものである。

a. Student-Athlete First Year Experience Course (OUE 1086/1087)

OUE 1086/1087 は、高校から高等教育への移行を支援するために設計された学生アスリートのためのコースである。コースのトピックには、学業的なスキル、自己認識、アイデンティティーの開発、セルフ・オーナーシップ、多様な観点からの学生コミュニティが持つ責任の理解などが含まれている。このコースでは、大学1年目に直面する課題に対処することで、肯定的な人間関係を構築し、大学での経験を全体的に向上させるためのツールを提供する。すべての新入生学生アスリートは、行動評価 (DiSC assessment) と情動知能評価 (Emotional Quotient Inventory) を使用して、情動知能の開発に焦点を当てた12時間のリーダーシップ研修を受ける。自己認識に焦点を当てたこのカリキュラムは、生徒が自分の価値観やモチベーション、より大きな目的について考える機会を提供し、その後何年にもわたって役立つリーダーシップの能力を身につけるのに役立つ。



図1 ミネソタ大学 AD のビジョンとミッション

表2 ミネソタ大学 AD における学生アスリートライフスキル開発への取り組み

部署名	The Land O' Lakes Center for Excellence (通称L.I.N.K)
存在理由	我々はゴールデン・ゴーフアーズ (ミネソタ大学の愛称) での経験が社会に活かすことができるもの (Transformational) だと信じている 全人的 (Total person) な育成を推奨し、以下のことを行なう。
具体的な取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 良好な人間関係の醸造 2. 資源の接続 3. 組織間の協力関係構築 4. 経験の共有 5. リーダーの育成

b. Leadership Retreat

このプログラムは、毎年リーダーシップ協議会のキックオフとして行われる。週末に行われるキャンパス外でのリーダーシップ研修として、各スポーツを超えて学生アスリートたちが一堂に会し、グループワークなどを通してコミュニケーション、モチベーション、自己認識、説明責任などの分野を中心に、新たなリーダーシップスキルを身につける機会となる。

c. Leadership Council

リーダーシップスキルを開発し、実践するため、ゴーファーズにおける全スポーツ競技の学生アスリートにチームを超えたリーダーシップ発揮の機会を提供している。このリーダーシップ協議会は、学生アスリートが直面しているリーダーシップに関する課題を仲間との議論を通して共に解決する場となっている。

d. Individual Team Development

個別のチームを対象として、チーム文化、チーム構成員の行動評価や情動知能評価、モチベーション、共感、その他カスタマイズされたトピックを取り上げ、チームが最高のパフォーマンスを発揮できるように支援している。

e. Leadership U Speaker Series

地域の著名な卒業生やビジネスの専門家によるリーダーシップに関する講演を実施している。これらの講演は、学生アスリートだけでなくADスタッフ個人個人のリーダーシップ開発に役立つように設計されている。

f. Leadership U Advisory Group

このアドバイザーグループは、地域における企業コミュニティのメンバー、ミネソタ大学の経営メンバー、およびアドミニストレーター、コーチ、学生アスリートを含むADの内部メンバーで構成されている。その目標は、「現在および将来のリーダーシッププログラムの戦略的ビジョンについての洞察を提供する」、「キャンパスや周辺地域からの関心と認知度を高める」、「民間企業が学生アスリートに提供できる可能性のある雇用機会について話をする機

会を設ける」、「ADとリーダーシッププログラムの強化を支援する関係を構築する」、「リーダーシッププログラムのカリキュラムを、学生アスリートが職業人としてのキャリアを準備するのに役立つ方法のようにレビューする」という5つである。

g. The Student-Athlete Advisory Committee (SAAC)

SAACは、ミネソタ大学における学生アスリートのコミュニティに意図的に奉仕し、成長や能力開発を促進する機会となっている。委員会のメンバーは全て学生アスリートであり、5名の執行委員と各チームからの代表者42名によって構成されている。学校期間中は毎月第一日曜日の午後7時から8時に開催されており、メンタルヘルス啓発週間(簡易な健康食の提供、ヨガや瞑想、動物との触れ合い)、M.A.G.I.C.プログラムやミネソタ学生協会(MSA)とのパートナーシップの企画や推進を行なっている。また、長期休暇明けに学生アスリートが集まって行うBBQの実施やキャリア支援イベントなどの運営支援なども行なっている。

ii) Inclusion & Innovation

a. Maroon and Gold Impacting the Community (M.A.G.I.C.)

このプログラムは、ヘルスケアカンパニーのアボット・ラボラトリー社が一部支援するボランティアプログラムであり、学生アスリートに有意義な地域社会への奉仕活動を通じて、個人的、専門的、そしてリーダーシップのスキルを身につける機会を提供している。このプログラムを通して、他者に奉仕することが、奉仕している相手だけでなく自分自身の生活にどれほど深くポジティブな影響を与えることができるのかを学生アスリートに教えると共に、学生アスリートにミネソタ大学の代表として活動するプラットフォームを整備し、自分の経験を直接、かつメディアを活用して積極的に共有することを学ぶ機会とする。このような体験を通して、

学生アスリートに青少年の模範となる機会を与え、人間的な成長を促している。また、多様な職業上の人脈を構築するために、学生アスリートにネットワーキングの機会を提供すると共に、組織内でのリーダーシップ、協調性などの職場環境に転移可能なユニークなスキルを開発することで、職業人としての専門的能力の開発に貢献している。特に、リーダーシップ開発を重要視しており、学生が率先して行動し、時間を適切に管理することを奨励すると共に、情動知能と共感力を向上させる機会を提供し、社会奉仕活動に参加することで、全人的な学生アスリートの育成を目指している。具体的な取り組みとしては、2009年より実施されている、心と体を健康に保つために子供たちに運動を奨励する「Exercise Your Heart and Mind」キャンペーンや、喫煙や副流煙の危険性について若者たちに語りかける「Tobacco Free is the Way to Be」キャンペーンなどがある。

b. The M.A.G.I.C. Bus

2003年に開発されたM.A.G.I.C.プログラムは、すべての学生アスリートに社会奉仕の機会を提供していることを誇りとしており、ボランティア活動のために地域間を横断して移動するため、学生アスリートの顔がデザインされた特別なバス(The M.A.G.I.C. Bus)を2007年より導入している。M.A.G.I.C.バスやM.A.G.I.C.プログラムのポスターデザインには、ボランティア活動に興味を示し、地域社会で積極的に活動している学生アスリートがゴールデン・ゴーフーズの代表として選出される。

c. Diversity and Inclusion Four-Year Plan

ミネソタ大学ADでは、最重要なコミットメントの1つとして「Champion Diversity and Inclusion」を掲げ、すべての学生アスリート、コーチ、スタッフに敬意を払い、すべてのコミュニティと連携して異なる属性の人を求め、公募すること、意図的な公募と採用の実践を通じて多様性を広げることを推進している。なお、ここで用いられている「インクルージョ

ン」は、性別や人種、民族や国籍、社会的地位、障害の有無など、持っている属性によって排除されることのない状態を指している。また、ミネソタ大学におけるキャンパス全体を牽引するリーダーとなることを目指して「Diversity and Inclusion Committee」という委員会を2017年に結成し、その中で2019年から2023年の4ヵ年計画を作成した。この4ヵ年計画は、学生アスリート、コーチ、アドミニストレーター、寄付者や後援者、ファン、契約職員、および関わりのある全てのコミュニティのために作成された部局全体のイニシアチブとなっている。ここでは、多様な経験を代表する人々を惹きつけ、採用し、育成し、維持するため、個人の違いを受け入れ、理解する文化を支援することで、共に前進することを目指すものである。この戦略的計画の重点は、「多様性とインクルージョンのチャンピオンになる」、「教育、気づき、行動の提供」、「人材の獲得と定着を確実にする」、「ボランティアの機会とサービスの提供」の4つの分野に分かれている。多様性とインクルージョンに関する取り組みの中核となる「Diversity and Inclusion Committee」に加えて、4ヵ年計画の設計、施行、評価を支援するAD内の様々な役割で働く多様なスタッフのグループからなる3つの小委員会がある。3つの小委員会はそれぞれ「教育、気づき、行動の提供」、「人材の獲得と定着を確実にする」、「ボランティアの機会とサービスの提供」のうち特定の目標を1つ持ち、多様性とインクルージョンに重要な領域に焦点を当てている。関与しているスタッフ全員が独自の視点を持っており、AD内での包括的な経験の創造に役立っている。

d. Black Student-Athlete Association (BSAA)

BSAAは、黒人というアイデンティティを有する学生アスリートが、ゴールデン・ゴーフーズにおいて表明しているアイデンティティと経験を通じて、ミネソタ大学において最適な支援を得られるようするための対話の場を提供するこ

とに尽力している。また、リーダーシップの育成、価値観の探求、そしてユニークな人生に価値を置くキャンパスや地域社会のメンバーとの連携を促進しながら、学業とスポーツの卓越性を追求することを支援する。

e. Gopher Advocates and Allies

学生アスリートだけでなく、より大きな大学コミュニティへの教育を通じて、目に見えた形で、インクルーシブに、歓迎される文化を創造することで、性的マイノリティのコミュニティをよりよい方向に導くことに尽力している。ここでは、スポーツ心理学の専門家が所属する「Gopher Athletics Sports Psychology」や性的マイノリティの学生が相談することのできる窓口として「Gender and Sexuality Center for Queer and Trans Life」、その他深刻な悩み等を相談することのできる「The Trevor Project Lifeline」を設置しており、学生アスリートの精神面でのケアにも取り組んでいる。

f. Gopher International

すべての留学生アスリートのために、信頼と団結の文化を育むインクルーシブなコミュニティと支援ネットワークを構築することを目指し、文化交流イベントの提供や、大学の留学生奨学金サービス (ISSS) との健全なパートナーシップの維持に取り組んでいる。また、彼らがリーダーシップを発揮する機会やコミュニティに奉仕する機会を創出することで、キャンパス内だけでなく、より広く国際社会との深いつながりを築く手助けをしている。

g. Women Invested in Leadership and Learning (W.I.L.L.)

このプログラムは、冷凍食品を主に扱うシュワン・フード・カンパニーがスポンサーとなり、個人的にも職業的にも優れているという自己意識を高めることを通じた、若い女性のエンパワーメントと教育の促進を目的としている。また、持続可能で透明性があり、インクルーシブな方法で、競技スポーツを引退した後の人生における準備を共同で進めるために、若い女性の

コミュニティを活性化することを目指している。具体的には、多様な人とのネットワーキングやメンターの獲得、面接を通じた自己への気づき、ソーシャルメディアやオンライン上での自己表現、履歴書の作成、社会人としてのエチケットの学習などの機会を提供している。

iii) Networking

a. Internship Development Program

ミネソタ大学 AD では、部局運営、競技パフォーマンス支援、渉外、用具管理、施設管理、イベントマネジメント、基金、同窓組織 (M Club)、デジタルコンテンツ制作、リーダーシッププログラム (Leadership U)、チケットオフィス、ビデオ制作とスコアボード操作、女子バスケットボールチーム運営、アメリカンフットボールチーム運営などの領域で、1年間のインターンシッププログラムを実施している。

b. Career Services

ミネソタ大学のキャリア支援プログラムは、学生アスリートの将来の成功を確固たるものとするために必要となる経験と資源を提供している。具体的なプログラムには、個人に合わせたキャリアプランの作成、キャリアカウンセラーとの個別面談、キャリアを模索するためのリソース、履歴書とカバーレターの作成支援、面接練習、インターンシップや就職活動の支援ツールやガイダンス、経営者や卒業生と繋がる機会などがある。また、学生アスリートのキャリア形成に向けた4年間の計画を提案している (表3)。

c. Gold PASS

学生向けのキャリア開発プラットフォームを提供する Handshake 社によって運営されており、地域、国内、海外のとのキャリアネットワークを築くことができるオンラインサービスである。基本的な機能としては、履歴書を投稿したり、求人やインターンシップ、ボランティアを探したり、キャリアイベントや学内での面接に登録したりすることができる。

表3 学生アスリートのためのキャリア形成に向けた4年間の計画

1年生 (キャリア形成の開始)	<ol style="list-style-type: none"> 1. GoldPASS/Handshakeでプロフィールを作成する 2. 履歴書を作成する 3. 学内でのキャリア調査活動 4. キャリアイベント (必須) : Pro Day 	
2年生 (選択肢の模索)	<ol style="list-style-type: none"> 1. LinkedInのプロフィールを作成する 2. キャリアパスを探る (少なくとも1つを選ぶ) 3. ボランティアやリーダーシッププログラムでの経験を積む (インターンに向けた経験) 4. キャリアイベント (必須) : Pro Day, W.I.L.L. (女性学生アスリート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインリサーチ ・キャリア座談会に参加する ・職場見学会への参加 ・情報取捨のための社員訪問
3年生 (選択肢の絞り込み)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味のある分野に合わせた履歴書の更新とカスタマイズ 2. 面接のスキルを学び、練習する 3. 興味のある分野のインターンシップを行う 4. キャリアイベント (必須) : Pro Day, W.I.L.L. (女性学生アスリート) 	
4年生 (仕事を得的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の戦略で求人を探す (9月に開始) 2. 模擬面接 3. さらに興味と関連する経験を積む 4. キャリアイベント (必須) : Pro Day, W.I.L.L. (女性学生アスリート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアフェアへの参加 ・情報取捨のための面接 ・オンラインの活用 ・学内での企業説明会 ・ケースコンペ (ビジネス上におけるケーススタディの解決を競うキャリアイベント) ・短期インターンシップ ・長期インターンシップ ・ボランティア (希望職種と関連するもの)
選択的な活用を 推奨するプログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院・専門職学校を調べて出願を開始する (3年次) 2. 大学主催のキャリアワークショップやイベントへの参加 3. ミネソタ大学就職・インターンシップフェア (2月) または学部主催のキャリアフェアへの参加 4. 経営者や卒業生による座談会、または説明会への参加 5. エチケッター (礼儀作法を学ぶ食事会) への参加 6. キャリアカウンセラーによるキャリアプランニングセッションへの参加 7. 情報取捨のための社員訪問 8. 職場訪問 9. 職場体験 	

d. Pro Day

Pro Dayとは、ミネソタ大学ADが主催するキャリア&インターンシップフェアのことであり、学生アスリートが職業人としての人間関係を築き、社会に応用可能なスキルを披露する機会を提供する。このプログラムは、学内で開催されている他のキャリアフェアやインターンシップフェアに参加する機会を得られないような学生アスリートの、多忙なスケジュールに対

応するために企画されている。

iv) Knowledge

a. “M” CLUB

学業的、競技的、社会的な側面における全てのレターウィナー (優秀者) を人生のチャンピオンにすることを使命とし、彼らが大学での競技を引退した後における社会への移行を支援する。また、彼らの功績を称えることにより、す

すべての優秀者のレガシーを残す。また、現役の学生アスリートの学業、競技、社会活動上の成長を支援し、すべてのレターウィナー同士のつながりと関係を育むために、包括的で、積極的で、慈善的な文化の創造を目指している。その年のレターウィナーには授賞式で記念品が贈られ、一回目の受賞では「“M”の文字入りジャケット」、二回目の受賞では「“M”の文字入り記念盾」、三回目の受賞では「“M”の文字入りウールブランケット」、四回目の受賞では「“M”の文字入り時計」がそれぞれ贈られる。また、最初に受賞してから50年目のレターウィナーには「“M”の文字入りダイヤモンドピン」が贈呈される。

ミネソタ大学において荣誉とされ、競技、学業、社会活動における優秀者に贈られる「“M”」の一文字 (varsity letter) を与えられた学生アスリートは、「“M” CLUB」のメンバーとなる。「“M” CLUB」内では様々なプログラムが提供され、全てのレターウィナーは卒業後も大学との関わりを持つとともに、「“M” CLUB」の提供するプログラムに参加する機会が提供される。まず、21歳から26歳の大学を離れたばかりの卒業生を「ルーキーズ」と呼び、キャリア開発、アイデンティティの再形成、自己ブランディングなど、社会人への移行期を支援するプログラムを提供している。次のステージではメンバーを「ヤング・プロフェッショナル」と呼び、ネットワークを構築しADとのつながりを継続していくことでレターウィナー達を支援する。「“M” CLUB」は、周辺地域での限定ネットワーキングイベント、セミナー、パーティ等を提供している。さらに、人生の晩年を迎えたメンバーを「レガシー・メンバー」と呼び、彼らがゴールデン・ゴーフーズとの繋がりを保つことを奨励している。また、「“M” CLUB」は、全てのメンバーがこのプログラムに関わりを持ち、恩返しをする機会を創出することを約束している。レターウィナー達は、現役の学生アスリートへのメンターシッププログラムにその経

験と知識を提供したり、試合会場に足を運んでチームを応援したり、「“M” CLUB」に財政的な支援をすることが期待されている。

全てのレターウィナーが参加することのできるプログラムには、スポーツ別の同窓会やチャンピオンシップの祝勝会への出席、アメリカンフットボールゲーム観戦時におけるスタジアム内の「“M” CLUB Room」の使用、年に一度開催されるゴルフトーナメントへの参加、スポーツの殿堂 (Hall of Fame) セレモニーへの参加、女性学生アスリートの専門的な能力開発を目指したW.I.L.L.プログラムへの参加、Pro Day (学生アスリートキャリアフェア) における自身の企業やボランティアの紹介などがある。

b. Block “M” Supporters

年会費、または終身会費を納めている、もしくは「“M” CLUB」を財政的に支援している会員のことをいう。彼らから集められた資金は、レターウィナーの社交行事やプログラム、ホームゲーム等を行うレターウィナー向けのイベント、学生アスリートの専門能力開発プログラム、レターウィナー授賞式などに使用される。この「Block “M” Supporters」は、「“M” CLUB」におけるメンバーシップの範囲で適用される機会にアクセスできるだけでなく、ミネソタ大スポーツのシーズンチケット2枚を50%割引で購入でき、スポーツのシーズン中に行われるホームゲームイベントへの入場券2枚が提供される。さらに、アメリカンフットボールのホームゲーム当日にスタジアム内の「“M” CLUB Room」に入場できるゲストパス3枚（自身を含めて4名で入室可）の寄贈、彼らの限定ネットワーキングイベントへの招待などの特典がある。なお、「“M” CLUB」のメンバーには、学内や競技会場での身分証明書として使用でき、名前とバーコードが記載されたIDカードが渡される。このIDカードを持つことによって「“M” CLUB Room」へのアクセスが可能となっている。

IV. まとめ

本稿では、大学スポーツ協会の創設に際して参考とされた米国 NCAA に加盟する大学における学生支援プログラムの事例から、国内の大学における「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」の涵養に資する資料を得ることを目的として研究を行うこととした。ここでは、米国 NCAA によって実施されている学生アスリートのライフスキル開発支援プログラムに関連する文献をレビューするとともに、NCAA の加盟大学であり、ライフスキル開発支援プログラムを積極的に行なっているミネソタ大学を事例とし、米国の大学がどのようにして学生アスリートへの支援プログラムを実施しているのか、その実態を明らかにすることを試みた。本稿において概観した NCAA のライフスキルプログラムやミネソタ大学の事例は、常に大学を卒業した後、競技スポーツを引退した後の人生において活かすことのできる汎用的なスキルを、学生アスリートとして活動する間に身につける支援をすることが中心であった。また、そこで提供されているプログラムは多岐に亘り、かつ多様な役割や価値観に触れる機会を創出することによって、競技活動だけでは得られない包括的な体験が提供されている。これらのプログラムをそのまま国内の大学に適用することは、文化的、財政的な観点から容易ではないかもしれないが、大学設置基準に記されているような、「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」の涵養という観点で、日本の高等教育において競技スポーツ活動を行う学生にどのような成長や能力の開発を望むのか、そしてどのような支援を提供することができるのかを検討する上で、有用な参考資料となるのではないかと考えられる。

文献リスト

1) Baillie, P. H., & Danish, S. J., Understanding

- the career transition of athletes, *The Sport Psychologist*, 6(1), 77-98, 1992.
- 2) Beamon, K., P. Bell., "Going Pro": The deferential effects of high aspirations for a professional sports career on African American student athletes and White student athletes, *Race and Society* 5(2), 179-191, 2002.
- 3) Beamon, K. "I'm a Baller": Athletic Identity Foreclosure among African American Former Student-Athletes, *Journal of African American Studies*, 16(2), 195-208, 2012.
- 4) Brown, C., & Hartley, D., Athletic identity and career maturity of male college student athletes, *International Journal of Sport Psychology*, 29, 17-26, 1998.
- 5) Chen, S., Mason, N., Middleton, S., & Salazar, W., An Examination of Behavioral Data and Testing Scores as Indicators of Student-Athletes' Academic Success, *Kentucky Newsletter for Health, Physical Education, Recreation & Dance*, 51(1), 1-10, 2013.
- 6) Comeaux, E., Rethinking academic reform and encouraging organizational innovation: Implications for stakeholder management in college sports, *Innovative Higher Education*, 38 (4), 281-293, 2013.
- 7) 大学スポーツ協会, <https://www.univas.jp/about/>, 2020年9月17日
- 8) Falls, D., & Wilson, B., 'Reflexive modernity' and the transition experiences of university athletes, *International Review for the Sociology of Sport*, 48, 572 - 593, 2013.
- 9) Fuller, R. D., Transition Experiences out of Intercollegiate Athletics: A Meta-Synthesis, *The Qualitative Report*, 19(46), 1-15, 2014.
- 10) 池田孝博・小林勝法, 日本版 NCAA 創設をめぐる国内の動向と今後の課題, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 26 (1), 1-15,

- 2017.
- 11) Kelly, D. D., & Dixon, M. A., Successfully navigating life transitions among African American male student-athletes: A review and examination of constellation mentoring as a promising strategy, *Journal of Sport Management*, 28, 498-514, 2014.
 - 12) Lally, P., & Kerr, G., The Career Planning, Athletic Identity, and Student Role Identity of Intercollegiate Student Athletes, *Research quarterly for exercise and sport*, 76(3), 275-285, 2005.
 - 13) McGlade, B., The development and implementation of the Total Person Program at the Georgia Tech Athletic Association (Published dissertation), University of North Carolina at Chapel Hill, 1997.
 - 14) McKnight, K., Bernes, K., Gunn, T., Chorney, D., Orr, D., & Bardick, A., Life after sport: Athletic career transition and transferable skills, *Journal of Excellence*, 13, 63-77, 2009.
 - 15) 文部科学省, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/053/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/10/30/1325943_02_3_1.pdf. 2020年10月6日.
 - 16) Murphy, G. M., Petitpas, A. J., & Brewer, B. W., Identity foreclosure, athletic identity, and career maturity in intercollegiate athletes. *The Sport Psychologist*, 10(3), 239-246, 1996.
 - 17) National Collegiate Athletic Association, 2020-21 NCAA Division I manual. National Collegiate Athletic Association, Indianapolis, 2020.
 - 18) National Collegiate Athletic Association, <http://www.ncaa.org/>, 2020年9月17日.
 - 19) Petitpas, A. J., Brewer, B. W., and Van Raalte, J. L., "Transitions of the student-athlete: theoretical, empirical, and practical perspectives," in *Counseling and Psychological Services For College Student-Athletes*, ed. E. F. Etzel (Morgantown: Fitness Information Technology), 283-302, 2009.
 - 20) Shurts, M., & Shoffner, M., Providing Career Counseling for Collegiate Student-Athletes: A Learning Theory Approach, *Journal of Career Development*, 31(2), 95-109, 2004.
 - 21) スポーツ庁, 大学スポーツの振興に関する検討会 最終とりまとめ～大学のスポーツの価値の向上に向けて～, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf. 2020年9月17日.
 - 22) スポーツ庁, 平成29年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1406126.htm. 2020年9月17日.
 - 23) University of Minnesota Athletics, <https://gophersports.com/index.aspx>, 2020年9月17日.
 - 24) Taylor, J., & Ogilvie, B. C., A conceptual model of adaptation to retirement among athletes, *Journal of Applied Sport Psychology*, 6(1), 1-20, 1994.
 - 25) Wooten, H. R., Healing into life after sport: Dealing with student-athletes' loss, grief, and transition with EFT, *Journal of Creativity in Mental Health*, 1(3/4), 89-102, 2005.